

【小施策評価(平成30年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	4	人が集い活力を生むまちづくり	小施策 主管課等	農政課	
施策	21	農林業の振興	評価 責任者	佐々木 伸司	内線 6032
小施策	21-1	経営力・生産意欲の向上と後継者の育成	評価 シート 作成者	鈴木 茂也	内線 6033

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
<ul style="list-style-type: none"> 高齢化や後継者不足とともに、耕作放棄地の増加が懸念されることから、地域における「人と農地の問題」に取り組む必要がある。 営農活動における地球温暖化防止や生物多様性の保全などが求められていることから、減農薬、減化学肥料による特別栽培など、環境保全型農業に取り組む必要がある。 県内最大の消費地である地域特性を生かした農林業の展開を図るため、農工商連携や6次産業化、ブランド化による農畜産物の高付加価値化と販路拡大及び産直施設の経営強化への支援が必要である。 有害鳥獣による農作物被害を軽減し、農家の収益を向上させるため、有害鳥獣の捕獲及び被害防止対策を強化する必要がある。 市民の食の安心・安全を確保するため、東京電力福島第一原発事故に伴う放射性物質拡散への対策も引き続き行う必要がある。 地域林業を活性化するため、健全な森林の育成と市産材の利用を拡大する必要がある。 	<p>農業者・林業者の生産意欲が高まるような振興施策を展開するとともに、地域の特性を生かした多様な農畜産物の高品質・ブランド化により生産性が高く競争力のある産地の形成を図るため、盛岡産農畜産物のブランド力の向上をはじめとした「食」と「農」の連携を積極的に推進する。</p>
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
農業者・林業者	生産意欲が高まる。 盛岡産農畜産物のブランド力の向上をはじめとした「食と農」の連携が図られる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成30年度実績)

実績値の推移				実績の評価		
				成果点	成果の要因分析	
指標① 都市・農山村交流人口 当初値 (H25) 1,231,058 R1目標値 1,292,000 R6目標値 1,354,000				単 位 人 目指す方向 ↗	成果点 【農業まつり・グリーンツーリズム】 ・農業まつりの来場者数が増加した(12,000人→14,000人)。 ・グリーンツーリズム関連施設の年間利用者数が増加した(246,940人→316,630人) 【新規就農者】 ・新規就農者は増加傾向にある(126人→137人)。 【中山間地域】 ・中山間地域等直接支払事業の取組により、耕作放棄地の発生や農用地の減少を抑制した。	成果の要因分析 【農業まつり・グリーンツーリズム】 ・主要な出品物となるりんごの収穫体験ツアーの実施や農業用機械の展示会の開催など、新たな取組を導入した販売促進活動が集客増につながった。 ・ユートランド姫神の再整備が完了したことに伴い、来場者数が増加したことが利用者数の増加につながった。 【新規就農者】 ・新規就農者の確保を目的とした対策(見学会、親元就農付金)を実施したことによる効果と見込まれる。 【中山間地域】 ・交付金の活用により、条件不利な中山間地域にある農地の適切な管理を推進することができたことによる。
				問題点 【農産物直売所】 ・連合会に加盟する農産物直売所の年間利用者数が減少した。(933,639人→906,490人) 【その他】 ①新規就農者が認定農業者へ移行し、農業への定着を図ることが必要。 ②もりおか短角牛の肥育農家数と出荷頭数のさらなる増加を図ることが必要。 ③市内の森林が、人工林を中心に利用期を迎えていることから、木材利用や再造林など、森林資源の循環利用の推進が必要となっている。	問題の要因分析 【農産物直売所】 ・再整備が完了したユートランド姫神の産直以外は、利用者数が軒並み減少している(△1.2%～△16.7%)。組合員の高齢化や減少が経営に影響を及ぼしているものと考えられる。 【その他】 ①就農直後は農業経営が不安定になりやすく、就農者の所得が確保しにくいなど、新規就農者の農業経営は依然として厳しい状況が続いている。 ②肥育農家の高齢化や後継者不足が進み、生産基盤の弱体化が懸念されるなど、肥育農家の経営は依然として厳しい状況が続いている。 ③木材価格の低迷などにより森林所有者の経営意欲が低下している。	
指標② 本市がブランド化に取り組んできた品目を使った6次産業化商品の販売額 当初値 (H27) 1,800 R1目標値 2,700 R6目標値 3,900				単 位 万円 目指す方向 ↗	成果点 【もりおかの食と農バリューアップ推進戦略に基づく取組】 ・『食と農』のまちのイメージ確立のため、「美食王国もりおか」ブランドを構築し、ロゴマークの開発、ウェブサイトの開設のほか、ファンクラブ会員の募集などを行った。 ・生産現場を体験できるツアーの実施や、市内外のイベントへの「morino café」の出店などのほか、盛岡産農畜産物を使用したコースメニューが味わえる「盛岡美食の夜」を開催するなどした。 ・市内の農業者などが、盛岡産農畜産物の6次産業化等に取り組むことに対し、補助金を交付した。 【盛岡特産ブランド食材の加工品販売額】 ・販売総額が対前年度比192.1%と飛躍的に伸び、早期に目標を達成することができた(20,521千円→39,419千円)	成果の要因分析 【もりおかの食と農バリューアップ推進戦略に基づく取組】 ・もりおかの食と農バリューアップ推進戦略」に掲げるアクションプランに基づき、食と農の「基盤づくり」と「バリューアップ」を実現するための事業を展開し、盛岡の食や農への興味、関心を高める機会を創出できたことによる。 【盛岡特産ブランド食材の加工品販売額】 ・各種イベントでの店頭販売の効果が表れたこと、盛岡の美味しいもんアンバサダーの認定メニューとしてブランド食材が使用されたこと、さらに、新たな食材として黒ひら豆や米などの食材が加わったことによる。
				問題点 ・盛岡特産ブランド食材の中には、消費の安定性や継続性に欠けているものが存在する。	問題の要因分析 ・食材の品目によっては、消費者や飲食関係事業者のニーズを満たすために必要な生産量を確保することができないものや流通体制が整備されておらず安定的に入手することができない現状にあるものが存在している。	

今後の方向性(令和元年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R1年度着手済または着手予定 ☆…R2年度以降の着手を検討
<ul style="list-style-type: none"> ★ 高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加など、地域における「人と農地の問題」への対応を推進する。 ★ 農業まつりを通じて農業に対する理解の促進を図り、安全安心な食の啓発と地産地消を推進するとともに、新たに盛岡産農畜産物の魅力発信を行う。 ★ 農業者の就業機会の創出や6次産業化・地産地消の推進の役割を担う農産物直売所を側面から支援する。 ★ 新規就農者の確保を目的とした対策を引き続き進めるとともに、新規就農者が認定農業者へ移行し、定着を図ることを可能とする取組を行う。 ★ もりおか短角牛の導入経費に対する補助制度を引き続き実施し、肥育農家の育成・確保を図る。 ★ 森林資源の循環利用のため、市産材の需要拡大の推進が必要である。 	
<ul style="list-style-type: none"> ★ 平成30年度に整備した食と農の基盤を活かして、食と農に関わる様々な主体が交流し、愛着を深められる機会を増やしなが、盛岡産農畜産物が市内外の食産業事業者継続的に利用・消費されるよう生産者・産地直売所と食関連産業をつなぐ流通体制を強化していく。 ☆1 流通体制の強化により、盛岡産農畜産物の販路拡大と高付加価値化に努めると同時に、他の事業と連携して新規就農者や担い手の確保に取り組んでいく。 ☆2 産地交付金における振興作物等助成の対象品目に、盛岡産食材主要6品目である「アロニア」「黒ひら豆」を新たに追加し、作付の拡大を図っていく。 	

実績値の推移				実績の評価															
指標③ 有害鳥獣被害金額		単位	目指す方向	成果点	成果の要因分析														
当初値 (H25)	26,192	千円	↓																
R1目標値	23,621																		
R6目標値	22,371																		
<table border="1"> <caption>実績値の推移 (千円)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当初値 (H25)</td> <td>26,192</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>21,949</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>23,081</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>24,864</td> </tr> <tr> <td>R1目標値</td> <td>23,621</td> </tr> <tr> <td>R6目標値</td> <td>22,371</td> </tr> </tbody> </table>				年度	実績値	当初値 (H25)	26,192	H27	21,949	H28	23,081	H29	24,864	R1目標値	23,621	R6目標値	22,371	<p>・有害鳥獣捕獲活動の担い手となる狩猟免許取得者数が増加した。</p>	<p>・平成29年度から開始した市単独の「狩猟免許取得費補助金」の活用が、狩猟免許取得者の増加に結びついた。</p>
年度	実績値																		
当初値 (H25)	26,192																		
H27	21,949																		
H28	23,081																		
H29	24,864																		
R1目標値	23,621																		
R6目標値	22,371																		
				問題点	問題の要因分析														
				<p>・クマやニホンジカによる被害のほか、近年は、イノシシ・ハクビシン等、新たな鳥獣による被害も拡大している。</p> <p>・有害鳥獣の捕獲の担い手の育成・確保が喫緊の課題である。</p>	<p>・温暖化の影響により、野生動物の生息域が拡大しているとともに、中山間地域の過疎化により耕作放棄地となった農地が野生動物の活動域となっている。</p> <p>・捕獲の担い手となる猟友会員の高齢化と減少が強く影響している。</p>														

評価を踏まえた取組の方向性

★…R1年度着手済または着手予定
☆…R2年度以降の着手を検討

★「狩猟免許取得費補助金」の活用による捕獲の担い手の確保や「電気柵設置費補助金」による被害防除対策を引き続き推進する。

☆1 イノシシ等の新たな鳥獣の生息や被害が確認されており、今後、生息域の拡大等が懸念されることから、被害防除の対策案を構築するとともに、捕獲わなの増強やICTなど新技術の導入を検討する。